

## (2) 小学部

### (1) 小学部の教育目標

- ① 学習に必要な基礎的言語力を身につけ、基本的なコミュニケーション能力を育てる。
- ② 思考力、判断力、表現力などの能力を育てると共に基礎学力の習得をめざす。
- ③ 集団を意識し、自主性、協調性や思いやりの心を育てる。
- ④ 基本的生活習慣を身につけ、心身ともに健康で明るい子に育てる。

### (2) 教育課程の編成方針

- ① 一般学級においては学習指導要領を基に小学校に準じた教育課程を編成し、児童の実態に応じて指導内容及び指導時数を弾力的に設定する。
- ② 重複障害学級（知的代替）においては、各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にした上で、個々の児童の実態に応じて効果的に実施するために教科別の指導や教科等を合わせた指導を弾力的に編成ができるようにする。
- ③ 全児童について、個別の教育支援計画に基づいた個別の指導計画を作成し指導の充実を図る。
- ④ 児童の実態を十分把握し、各学年・各学部との連携のもとで一貫性のある教育課程を編成する。
- ⑤ 基本的生活習慣の形成と基礎学力の向上をめざし、基礎的・基本的な内容の定着を図れるよう編成する。
- ⑥ 少人数学級の実態を踏まえ、望ましい社会性や人間性を育てるため、集団活動や校内外における交流及び共同学習を計画的に実施し、その充実を図れるよう編成する。
- ⑦ 道徳科においては、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科を要として各教科等それぞれの特質に応じて児童の発達の段階を考慮して適切に指導を行う。

### (3) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動の指導の重点 指導計画の作成と各学年の内容の取り扱いに当たっては、次の事項に配慮する。

- ① 児童の発達段階に応じた体験的学習を通して、個々の実態に応じた言語概念の形成を図り、思考力の育成に努めること。
- ② 児童の聴覚障害の状態等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置いて指導すること。
- ③ 視覚的に情報を得やすい教材・教具やコンピュータ等の情報機器を有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- ④ 児童の言語発達の程度に応じて、主体的に読書に親しむ態度を養うように工夫すること。
- ⑤ 補聴器等の利用により、児童の保有する聴覚を最大限に活用し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- ⑥ 児童の言語発達の程度や個に応じたコミュニケーション手段を活用し、ことばによる意思の相互伝達が活発に行われるように指導方法を工夫すること。
- ⑦ 外国語活動においては聞くこと、話すことを中心にして、外国語科は読むこと、書くことを加え、コミュニケーションの基礎的な資質能力の育成を充実させる。
- ⑧ 道徳的価値を自分のこととして理解し、多面的、多角的に深く考えたり、話したりする態度を育てる。

### (4) 交流及び共同学習の重点

#### 〈学校間交流〉

○大きな集団での活動を通して、生活経験の拡充を図り、社会性や協調性を養う。

○積極的に集団に参加する意欲を育て、同じ社会に生きる者として、お互いを理解し、関わり合いながらコミュニケーション能力を高める。

#### 〈居住地校交流〉

○居住地校での交流及び共同学習を通して、生活経験を広げ、社会性を養い、好ましい人間関係を育む。

(5) 生徒指導の重点

- 小学生として必要な基本的な学習規律や生活態度を身につける。
- 自分や友達を大切にし、きまりを守りながら、楽しい学校生活をおくる態度を育てる。
- 自分の行動に責任を持って判断し、自主的な行動ができる。

(6) キャリア教育の重点

- 自己の抱える学習や社会生活上の困難について理解し、自立や社会参加に向けて持てる力を高める。
- 夢や希望を持ち、自分の好きなことや得意なことを見つけようとする態度を養う。
- 係活動等を通して、集団の一員として自分の役割を果たすために主体的に考えて行動することができる。

(7) 生涯学習への意欲を高める指導の重点

- 生涯の各時期において、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、新たな知識や技能、教養を身に付けることができるように以下の項目に取り組む。
- 生涯にわたり学習する基盤を支える確かな学力を育む。
  - 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、個に応じた指導方法の工夫・改善に努める。
  - 児童が自分の良さや可能性に気づき、積極的に伸ばそうとする態度を育て、自己肯定感を育む。
  - 情報通信機器を積極的に活用する。
  - 生涯を通じて心身共に調和のとれた健やかな体の育成を図る。
  - 文化やスポーツなどに関し、家庭と連携しながら地域における活動や施設など情報収集に努める。

(8) 安全教育の重点

- 教育活動全般を通して、安全のために必要な事柄を理解し、望ましい行動ができる態度や能力を養う。
- 基本的な交通マナーを守り、安全な登下校ができる態度や能力を養う。
- 災害・非常時（地震・火災・不審者等）に適切な行動ができる能力を養う。

(9) ICT 利活用の重点

- iPad 等積極的な活用を通して、情報機器に慣れる。
- 写真や動画などを見て、学習を深めたり必要な情報を収集したりして、学習の充実を図る。
- 長文の作成や写真・音声・動画などを用いた多様な資料や作品の制作を通して、表現の幅を広げる。

(10) 授業日数及び授業時数の配当

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年	15	20	21	13	0	20	21	20	17	18	19	15	199
2年	16	20	21	13	0	20	21	20	17	18	19	15	200
3年	16	20	21	13	0	20	21	20	17	18	19	15	200
4年	16	20	21	13	0	20	21	20	17	18	19	15	200
5年	16	20	21	13	0	20	21	20	17	18	19	15	200
6年	16	20	21	13	0	20	21	20	17	18	19	10	195
備考													